

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2875200921		
法人名	株式会社 メッセージ		
事業所名	アミーコ神戸伊川谷		
所在地	神戸市西区伊川谷町有瀬字大末838-23 (電話)078-978-2161		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年4月18日	評価確定日	平成20年7月2日

【情報提供票より】 (20年3月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年8月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 18人, 非常勤 8 人, 常勤換算	19,1

(2) 建物概要

建物構造	耐火構造 鉄筋 造り		
	4 階建ての 1~4 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	79,400 円	その他の経費(月額)	26,250 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要 (3月30日現在)

利用者人数	25 名	男性 8 名	女性 17 名
要介護1	7	要介護2	5
要介護3	7	要介護4	3
要介護5	3	要支援2	
年齢 平均	83,9 歳	最低	71 歳
		最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長畑医院 みどり病院
---------	------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな風景が残る中、近年では市街化が進み、買い物等に便利な生活環境も整いつつある地域に位置するホームである。運営についての連絡体制や家族・地域との連携について、さらに努力する意気込みが感じられ、地域の一員としての役割を担うことに意欲的である。管理者・職員は入居者の今までの生活環境を把握しながら、本人が関心を示し力が発揮できるよう日々の暮らしの中で一人ひとりに応じた支援を行っている。医療・健康管理についても、協力機関から定期的な医師の往診や体調の変化・緊急時に適切な指示が受けられる体制が整っている。今後もサービスの質の向上を目指して、地域に開かれた施設としていっそう活躍されることを期待する。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	評価受診結果を踏まえ現在行っている業務を振り返る機会と捉え職員は、日常のケアの向上に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価は管理者とユニットリーダーの話し合いのもと作成されている。今後、職員は評価の目的や活用について更に理解を深め、評価項目毎に一人ひとりが確認し、日常のケアの振り返りとして日々の業務に活かしていく事を期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、民生委員・入居者家族・地域包括職員・他のグループホーム職員の参加があり、ホームの現状等の報告や意見交換の場となっている。運営推進会議で出された意見を活かしてホームの質の向上に向けて取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	入居者の心身の状況・生活の様子を担当者が家族へ手紙で送り、更に緊急事項・直接話したい事項は随時電話で報告している。『ご意見・ご希望カード』をホーム内に設置し、家族からの苦情・要望を収集し意見交換する等対応している。相談内容は詳細に記録し報告書を作成している。家族会を少人数に分けて意見や要望が出やすいよう配慮している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	昨年より、近くの小学校の盆踊りに出店したり、交流をさらに深めつつある。民生委員の方については見学会や運営推進会議に参加していただいている。玄関にも自動販売機を設置し、地域の方に利用してもらえようオープンな空間を設けている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ノーマライゼーションを基本とし、「利用者の尊厳・個性の尊重・選択の自由・社会的役割の創造」を事業所独自の理念として玄関に掲げている。		地域に根ざしたグループホームを目指し、地域の一員としての役割を担うことに意欲的である施設の取り組みを、理念の中に表現されることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に行われているカンファレンスの中で職員全体で理念に基づいた業務への取り組みについて説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年より、地域行事へ参加・近くの小学校の盆踊り出店する等、地域との交流を深めつつある。民生委員の方については見学会や推進会議に参加していただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価を業務の振り返りの機会と捉えサービスの質向上に向け取り組んでいる。自己評価は管理者とユニットリーダーの話し合いのもと作成されている。		評価の目的や活用について職員は理解を深め評価項目毎に一人ひとりが確認し、日常のケアの振り返りとして日々の業務に活かされることを期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営会議は2ヶ月に1回開催し、民生委員・入居者家族・地域包括職員・他事業所職員の参加があり、ホームの現状等の報告や意見交換の場となり、ホームの質向上に活かされている。評価の結果について説明し、ワムネットに内容の掲載がある事を運営推進会議や家族会で伝えている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>連絡協議会に毎回市の職員に参加してもらい積極的に情報交換を行っている。市が主催する研修会にも進んで参加している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の心身の状況・生活の様子を担当者が家族へ手紙で送っている。また、緊急事項・直接話したい事項は随時電話で報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>『ご意見・ご希望カード』をホーム内に設置し、家族からの苦情、要望を収集し、家族とファックスで意見交換する等細かく対応している。相談内容は詳細に記録に残し報告書を作成しカンファレンスで検討している。家族会を少人数に分けて意見や要望が出やすいよう配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者・リーダーが細かく職員に関わっており、ここ一年間は職員の離職がない。異動がある場合は、引継ぎの作業時間を充分にとり、利用者のダメージが最小限に抑えられるよう配慮している。異動状況については運営推進会議や家族会、手紙にて家族に伝えている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修は管理者も含め法人単位で取り組んでいる。職員の意識を低下させないように個人面談や昇給試験を導入している。全体的に外部研修についての参加が少ない。</p>		<p>外部研修の案内・参加への積極的な働きかけが望まれる。また研修後は職員間での情報共有のためにホーム内での研修報告会等の実施が望ましい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>定期的にグループホーム協議会へは参加し、同業者との情報交換はおこなっている。しかし不十分であり、情報量が少ないのが実情である。</p>		<p>グループホーム連絡会への参加は管理者のみではなく職員参加の取り組みが望まれると共に職員間での交換研修や見学等の実施を期待する。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>可能な限り利用者本人の見学を重ね、馴染みながらの入所を勧めている。スタッフは家族の協力を得ながら、利用者が安心して入所できるよう支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者やご家族と接する時には『上から目線』になってないか気をつけている。自宅ではどのような生活を送られ、環境であったかを考慮するよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時の情報収集に基づきケアプランを立て、入所後も日常接していく中で利用者一人ひとりに希望・要望を把握するよう努めている。聞き取りが困難な入居者には、家族への聞き取り調査を充分に行い、本人の視点に立った支援ができるよう検討している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回は管理者がアセスメントを行い計画担当者に引き継いでいる。本人・家族から意見、要望等聴取した際にはケアプランに反映できるよう計画担当者に変更の旨を伝えるよう取り組んでいる。計画作成後は本人、家族に説明し、同意を得ることにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを3ヶ月に1回実施し、状態を見て変化が頻繁にあるようなら、一ヶ月ごとに内容を見直している。		日常のケアと計画にずれが生じていないか、また入居者の状態変化の兆しへの早期対応のために、安定した状況の入居者も一ヶ月に1回程度の介護計画の振り返りが望ましい。定期的な評価を継続するとともに評価結果の記録の徹底が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の状態変化により入院に至った場合は、送迎やお見舞い等で早期退院にむけた支援を行っている。かかりつけ医受診希望については、家族の要望に応じて送迎も支援していただくよう取り組んでいる。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診があり、急変時等24時間対応が可能な体制が整っている。家族がかかりつけ医への受診を希望する場合は優先し、状況に応じて送迎の支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に一度だけターミナルの方の受け入れをしたことがある。入居時に重度化や終末期についてのホームの方針等を文書にて説明し家族に同意を得ている。家族の今の気持ちを確認するため文書にかいてもらうようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の尊厳を守る事を理念に掲げている。法人全体で接遇に力をいれ、定期的に研修を実施し、職員の意識を高め、日常のケアに取り組んでいる。個人情報の保護のために記録時の周囲への配慮や保管方法についての工夫がある。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ホームでの暮らしの基本の流れはあるが、本人の今までの生活歴を大切に、本人の希望や意向を聞く機会を持ち、個々のペースを尊重した支援を心掛けている。入浴や食事の時間は入居者の希望にそうよう配慮し、排泄介助は個々のパターンに基づく誘導を行っている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は外部業者からの搬入が基本となっているが汁物はホームで作るよう取り組み、入居者は個々の力量に応じて盛り付け・配膳・味見等を手伝っている。職員は入居者と同じ食事を摂り、毎日の食事アンケートに要望等を記入し業者に伝え、入居者の意向が反映されるよう取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の決まりはあるが、入居者の要望にそって調整していくよう努め、夜間入浴の希望にもそえるよう配慮している。希望にそえない状況の場合は入居者の納得のいくような説明を心掛けている。入居者の不安感や羞恥心に配慮し同性介助の希望に対応できるように取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の今までの生活環境を把握し、日々の暮らしの中で本人が関心を示し、力が発揮できるように、個々の介護計画にも反映させ支援を行っている。アクティビティの中にボランティアの協力を得た音楽療法を取り入れている。		アクティビティとして園芸・書道等でボランティアの協力を検討中である。入居者一人ひとりの力を見極め、活力が引き出せるような役割の提供についての工夫が期待される。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人全体において、利用者の生き生きした暮らしの維持の為に外出への支援を重視している。年間行事の中でわくわくツアーや個人旅行への支援の取り組みがあり、日常では出来る限り買物や散歩の要望にそえるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関は開錠しているが、ホーム周辺の道路の交通量等考慮し、ユニット毎の入り口は施錠している。入居者の様子に注意を払い外出の意向があれば希望にそえるよう心掛けている。		運営推進会議や家族会で施錠について意見や要望を聞く事を検討している。職員は、施錠により入居者に与える影響について話し合いを重ね、職員の身守り体制の工夫や地域の協力を得ることなど改善策について検討していく事を期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との協力にて年に2回避難訓練を実施している。避難経路の確認により速やかに避難誘導できるよう取り組んでいるが、地域との協力体制への働きかけは充分とはいえない。災害セットとして非常食等災害に備えた物品の準備がある。		運営推進会議等で災害に備えた地域の協力体制について話し合い、理解を求めて行く事が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの1日の食事摂取量を記録し健康状態の把握の参考としている。水分摂取については、職員は水分補給の必要性を理解し不足のないよう努め、必要に応じて摂取量を詳しく記録し情報共有している。慢性疾患治療中の入居者に関しては、医師と相談のうえ食事への配慮がある。定期的を実施している食事アンケートを活かした支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの入り口付近は、家族の意向を取り入れユニット毎の個性を大切に、花や装飾品を飾り家庭的で親しみやすい雰囲気への配慮がある。ゆったりとしたリビングの空間の中で、ソファや椅子の位置を工夫し、入居者の気持ちにそってくつろいだ時間が過ごせるよう環境を整えている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台・カーテン・照明器具は備え付けてあるが、ベッドや家具については使い慣れた物を持ち込み、穏かに過ごせるよう支援している。居室ベランダは開錠しており入居者の出入りは自由である。居室入り口には個々の入居者の心身の状態に配慮し場所間違い防止の為に、各ユニット毎に名前の表示の工夫が見られる。		

は、重点項目。